

かるがも



第20号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.kodomo.umin.jp/>

20回目の新年度に向けて



病院長 伊達裕昭



平成20年の桜は例年より早く開花して4月1日には少し散り始めていましたが、うららかな陽射しの中、こども病院は開院以来20回目の新年度の春を迎えました。

今年度は、この3年間看護局で病院の運営をともに担ってきた伊部看護部長が県立東金病院に看護局長として異動し、小堀副看護部長が退職したのに替わって、松本看護局長と大矢副看護部長を迎えました。両名ともかつて当院で副看護部長・看護師長の経験があり、院内の状況把握は充分できていることから、病院機能の維持継続に不安はありません。医療局では安全対策室長である青墳主任医長が診療部長に昇任して、3人の診療部長による体制を取るとともに、専門の立場から病院内の医療機器管理を推進する臨床工学科が新設されたことで、これまで以上に組織横断的な視点からの診療機能の安全と充実を図ります。さらに、小児の専門病院として病院内のこども達の生活の質向上を図るため、今年度から県内の医療施設では初めてのチャイルドライフスペシャリスト職を1名導入したほか、ボランティアとしてクリニクラウン(臨床道化師)の定期的な訪問を実現することができました。開院以来20年を経て、院内アメニティに関しては施設面において対応が困難な部分もありますが、これらをソフト面で少しでもカバーできるよう今後も努力していきたくと思います。一般にはまだ馴染みの少ないチャイルドライフスペシャリストやクリニクラウンの活動内容については、本年3月に開催いたしました「千葉県こども病院開院20年記念講演会」での講演内容をご覧になればご理解いただけるかと思えます。ぜひご参照下さい。



(<http://msdemo.mediasite.co.jp/Mediasite/Catalog?cid=373806de-91b6-49fe-a63e-116cb52e1021>)

他にも長く慣れ親しんでいただいた職員の異動もあるとは思いますが、診療や業務に滞りや支障を生じることが無いよう努めます。新たに加わった職員に対しましても、よろしくご指導、ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。



昨年の暮れから病院ではコンピューターを使用して予約や受付、指示出しなどを行う、いわゆる病院情報の IT 化を進めています。この間、システムへの対応の未熟さや運用の不手際など、皆様にご迷惑をおかけすることも少なからずあったと思います。しかし、こうしたシステムは家電品のように完成した製品があるわけではなく、病院の内情や運用形態に応じて徐々に作り込んでいく必要があります。このため引き続き今夏に予定されている電子カルテシステム(すべての病院情報をこれまでのように紙カルテに記載するのではなく、電子情報としてコンピューター内に蓄積する)への移行が終了するまで、今しばらく、皆様のご理解とご協力をお願いしたいと考えています。どうかよろしくご了承下さい。



また、昨年度は年度当初から麻酔科医師の減数のため、1年間を通して手術件数を制限せざるを得なくなり、手術を必要とする皆様に他病院での治療をお願いしたり手術予定を遅らせていただいたりと、病院としては苦渋の方策を取らせていただきました。その結果、昨年度は例年に比べ約300件の手術件数が減少し、ご迷惑をおかけしましたが、この4月からは麻酔科医師の増員・手術室の体制改善を行いましたので、今年度は従前もしくは従前以上の医療供給が可能になる予定です。どうぞご期待下さい。

いわゆる年金問題に端を発して、その後のメタボ対策としての特定健診制度や後期高齢者保健制度など、このところ私達に関係する厚生労働行政がマスコミに取り上げられ、話題に上がることが増えています。その一環として今回、診療報酬本体が実に8年ぶりに0.38%の引き上げとなり、早速4月1日からの保険診療に伴う医療費に反映されています。今回の改訂による医療費の支払い内容についてご不明の点があれば、どうか窓口の職員にお尋ねの上、ご確認いただきますようお願い申し上げます。

いま、小児の医療を取り巻く環境は大変に厳しいものがあります。しかしこうした中であっても、千葉県こども病院は、開院以来これまでの20年間にいただいた皆様のご協力とご支援を次の20年への糧として、未来ある子ども達の健康を守るために、引き続き新たな取り組みや改善に励んでまいります。今後とも当院に対する皆様の一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

平成20年5月1日